

# 学力研 その大切な実践を共に学びあい伝えあい

埼玉学力研 上原 謙市

二月二十四日、図書先生を迎えての学習会を埼玉で開きました。その様子にふれながら私たちの活動の一端を紹介します。

## 「明日へ生かす学力づくり・子育て講座」

「早春の学習会」とよんでいたこの時期の学習会ですが、近年は「明日へ生かす学力づくり・子育て講座」として進めています。今回はその第四弾でした。学力研が「落ち研」と呼ばれていた時代から積み上げ、明らかにしてきた「学力づくりの考え・実践」を今こそしっかりと生かしていきたい。そのためには子どもたちが育つ環境、乳幼児からの子育てという視点も欠かすことはできない、そういう思いからです。企画・運営は、教育現場の第一線を離れた人たちを中心に行っていますが、現役の方の声も生かしながら、じっくりと子どもたちの成長・発達について見渡し、提案できるだろうと前向きに考え取り組んでいます。

## 「読み書き計算」の意義はしっかりと

「百マス計算」が書店に平積みされていた時期の名残もあるのでしょうか、今も近隣の小学校では宿題にマス計算が出されているし、「漢字練習」「音読」などは当然のことのように進められています。一見学力研の実践と同じようですが、子どもたちの学習の様子を見ると“とりあえずの課題”扱いになっており、たとえ取り組みが善意で行われているとしてもそれでは豊かな学力づくりにはつながりません。今回の図書先生の『「読み、書き、計算」を大切にされた授業・学級づくり』という提案をより充実させるためにも、学力の基礎を鍛えていくことの意味も学ぼうと、主催者側から「問題提起」も行いました。「入学までの乳幼児期に何を育てなければいけないのか」「学力づくりで小・中・高を貫くものは何か」という提起です。自分たちが気につけ、

知りたいと思うことを大切にして学びながら、いろいろな人いろいろな場と繋がり、伝え広めていきたいと考えています。

## 多様な参加者とともに

参加者数はさほど多くないのですが、様々な参加者が集うのが私達の学習会です。今回も現職の先生、往年の学力研会員の方、かつての教え子（今は子育てお母さん）、地域の学び場の父母の方、学生さんが参加してくれました。私たちが是非一緒に学んでほしいと願う人は学級を担任している先生方だけではありません。参加者のお母さんがこんな感想を寄せてくれました。

「三歳と小三の娘がいるので、幼児から中学までのお話が同時に聞けて貴重な会でした。どのお話も面白く、興味を覚えますが、発達の段階に合わせたの教育や、読み書き計算の大切さを再認識しました。ノートの使い方やリズム漢字など、楽しく学ぶことを実践できたらと思います。」

学校と地域・家庭の間にあって、共に子どもたちの豊かな成長を願い学び合っていく活動をこれからもコツコツと継続していきたいと願っています。